

## 第2学年 生活科学習指導案

指導者 田中 陽子

### 1. 単元名 わたしの町はっけん「すてきがいっぱい！ぼくのわたしの町」

#### 2. 単元について

##### (1) 学習指導要領から

本単元は、生活科の内容(3)(4)(8)とかがわりがあるものである。特に、

- (3) 自分たちの生活は地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所とかかわっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、人々と適切に接することや安全に生活することができるようにする。
- (4) 公共物や公共施設を利用し、身の回りにはみんなで使うものがあることやそれを支えている人々がいることなどが分かり、それらを大切にし、安全に気を付けて正しく利用することができるようにする。

という内容と深くかかわっている。

ここでは、児童が身近な生活圏である地域に出て、そこで生活したり働いたりしている人々と接し、様々な場所を調べたり利用したりすることを通して、それらが自分たちの生活を支えていることや楽しくしていることが分かり、地域に親しみや愛着をもち、人々と適切に接することができるようにすることを目指している。また、児童にとって公共物や公共施設を利用することは、自分自身の生活を広げたり豊かにしたりするために大切である。そして、それらを積極的に、有効に利用できるようにするためには、公共物や公共施設を実際に利用して、自分の生活に生かしたり、自分以外の人のことを考えて行動したりする体験が不可欠である。本単元で地域に出かけることにより、様々な人々や場所との出会いをつくり、それらに心を寄せ、自分の生活とのかかわりをさらに広げたり深めたりすることを期待したい。

##### (2) 単元の目標

自分たちが住む町を探検する活動を通して、自分たちの地域の人や場所のすばらしさに気付き、地域の人や場所に対して親しみや愛着を深めることができるようにする。

##### (3) 単元の評価規準

- 地域で生活したり働いたりしている人々や、様々な場所に親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活したりしようとしている。  
(生活への関心・意欲・態度)
- 地域の人々や様々な場所とのかかわり方や安全な生活について考え、人々と適切に接したり安全に生活したりするとともに、心に残った出来事などについて、表現方法を工夫しながら身近な人々に伝えている。  
(活動や体験についての思考・表現)
- 自分たちの生活は、地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所とかかわりをもっていることが分かっている。  
(身近な環境や自分についての気づき)

### 3. 部会研究課題とのかかわり

研究課題 (1) 学校や地域の特色を生かした単元開発

#### ○昔ながらの地域と新しい地域、互いのよさに目を向ける

今までは、学校周辺の町を探検する学習を行ってきた。しかし、7年前から学区に加わった地域から通学してくる児童の人数が増えたことを考慮し、今回は学校周辺と学校から少し離れた新しく学区に加わった地

域を探検することとした。本校の学区は、学校周辺と学校から少し離れた地域に分かれている。このように住んでいる地域が離れているため、学級の友達がどのようなところに住んでいるか、どんな通学路を通っているのかなど、あまりよくわからないといった実態がある。そこで、単元の導入で、町のお気に入りを発表し合う活動を行う。その中では、「みなと駅の近くのパン屋さんからいつもいいにおいがしてくるんだよ。」や「公園のすべり台は大きくて石でできているんだよ。」といったそれぞれの地域のお気に入りが出るのが考えられる。そうすると「わたしも行ってみたい。」「ぼくのお気に入りを見てほしい。」といった気持ちが生まれてくるのではないかと考える。このような気持ちの高まりを大切にしながら、両方の地域を探検する活動を行う。それぞれの地域を探検することで、互いの地域のよさや違いに目を向けるとともに、自分の住んでいる地域への愛着を深めたり、学区全体への親しみがもてたりするのではないかと考える。

## 研究課題（２）子どものこだわりやよさを見つけ、やる気を引き出す支援のあり方

### ○「見たい。」「知りたい。」といった目的意識をもって探検する

単元の計画として、最初に子どもたちが町のお気に入りを発表する。そして、そのお気に入り確かめに学級全体で探検に行く。その後、「パン屋さんを見てきたい。」「お茶屋さんに行ってみよう。」といった目的の場所ごとのグループを作り探検に行くことを予定している。グループでの探検となった際には、一人一人が何を見たいか、何を知りたいかという目的をもって探検に行けるようにする。そのためには、学級全体で探検したときに、「このパン屋さんは、〇〇君のお気に入りだったね。」と紹介したり、お店の人に歩く時間をあらかじめ伝えておき、店先に出て子どもたちに声を掛けてもらえるようにしたりする。そうすることで、「今日はパン屋さんの前を通っただけだったけど、こんどは中に入って〇〇くんのお気に入りのパンを見たいな。」や「お茶屋さんのおじさん、優しいかったな。お茶のいい匂いもしたし、お茶のこと教えてもらいたいな。」といったような思いをもてるようにする。また、子ども達からの意見が少なかった場合には、「このおそば屋さんは、ここで蕎麦を打っているんだって。」や「美容室のお兄さんは、明るく元気な人だったよ。みんなにお仕事のこと教えてくれるって言っていたよ。」など、教師が知っている事柄を紹介するようにする。このように、一人一人が何を見たいか、何をしたいかという目的をしっかりとって探検に行けるよう支援にあたりたい。

### ○繰り返し探検することで、思いを叶える

子どもたちが地域の人たちとかかわり合いながら、こだわりをもって探検を行うためには、繰り返し探検をすることが大切だと考える。そのためには、グループごとに探検する機会を1度ではなく、2度設定する。そうすることで、1度目の探検を振り返り、「ぼくも、〇〇くんが話していた美容室に行ってみよう。」と新たなお店に行ってみようと思う子や「もう一度お茶屋さんに行き、お茶の美味しい淹れ方を詳しく聞いてきたいな。」と再度同じお店に探検に行きたいと思う子など、それぞれの思いが叶えられるようにする。

また、町探検についてまとめ、発表の準備をしていく過程で「お茶の種類について発表したいんだけど、聞くのを忘れてしまった」や「お店の中の様子をどうしても、もう一度見てきたい。」といったことが出てくることも考えられる。その場合は、学年で連携したり、お店の都合を聞いたりしながらできる限り子どもたちの思いが叶えられるよう対応していきたい。

## 研究課題（３）子どもに培いたい学びの力、またそのための手立てを明らかにした授業づくり

### ○活動の中で「適切にかかわり合うことの大切さ」を感じ、身につける

学習を進めていくと、地域の人々について「もっと知りたい。」「もっと親しくなりたい。」という思いや願いが生まれてくるのが考えられる。この思いや願いを実現させるためには、人々と適切に接することが、必要となってくる。しかし、子どもたちは経験が少ないため、最初はあいさつができなかったり、自分の思いばかりが先行して都合を尋ねてから質問をしたりすることができないのではないかと考える。もちろん、探検に行く前に最低限のルールやマナーは話し合うが、探検に行き、身をもって「かかわり合う」と

いうことを考えることができるようにしたい。そして、その中で「おはようございますってあいさつしたら、おはようございますって、元気にあいさつを返してくれて気持ちよかった。」「お客さんが来たから、待っていたら、えらいねってほめてもらっちゃった。」など、マナーを守ることで互いに気持ちよく生活できるという体験を重ね、子どもたち自身が人々と適切に接する態度を身に付け、地域のよさについてより理解を深めたり、地域の人々のもつ願いをしっかりと受け止めたりして、生活に生かせるようにしていきたい。

#### ○安全に対する意識を高める

学校の外に出る活動は、子どもたちにとってわくわくするものである。しかも、今回は少人数のグループでの探検もあり、より一層気持ちが高まると同時に自分達だけで行けるのかと不安になる子いるのではないかと予想される。そこで、どの道を通っていくのか、危険な箇所はないかなど、安全についてもグループでしっかりと話し合ってから探検に出かけるようにする。また、探検から戻った際には、危ないことはなかったか学級全体で話し合い、次回の探検に生かせるようにする。そして、各グループが責任をもって安全に気を付けて探検できるようにするとともに、探検に出かけたことで親しみや愛着をもつ人や場所を増やし、地域が安心して生活できる場と感ずることができるようになりたい。

#### ○表現方法、伝える相手を考えたい発表をする

町たんけんをした後は、自分の発見を伝えたい、友達がどんなことを聞いてきたのか知りたいという思いが生まれる。その思いを大切にしながら、町たんけんの内容を発表する活動を行う。子どもたちは見つけてきた発見や教えてもらった秘密を伝えるためにいろいろと発表の方法を考えるとすが、2年生ということもあり表現方法を多く知らないといった実態がある。そこで、教師が表現方法を提案したり、一緒に考えたりするとともに、教科書に載っている例などを紹介しながら多くの表現方法があることを学ばせたい。そして、自分はどの方法で発表すると効果的か考え、見通しをもって発表の準備が進められるよう支援する。また、伝える相手を具体的に思い浮かべながら発表の準備ができるようにしたい。子どもたちの思いとしては、身近な友達、家族というのがまず思い浮かぶであろう。また、町たんけんでお世話になった人達にも聞いてもらいたいという思いや来年たんけんに行く1年生に教えたいといった思いも大切にしながら充実した発表会になるようにする。

#### ○表現すること、発表を聞き合うことで町のよさを再認識する

いろいろな表現方法を知り、子どもたちは意欲的に発表の準備に取り組むことが予想される。しかし、表現方法ばかりに目を向けるのではなく、探検をする中で感じたお店の人の優しさやお店の裏側を見せてもらったことで初めて知った驚きなどを大切に、それらが聞いている人たちにも伝わるような発表となるように支援していく。そのためには、どうしてこの場所を発表しようと思ったのか、聞いている人に何を伝えたいのかなどを振り返り、実際に探検に行った当初の気持ちをもち続けながら「町の大すき」発表会を迎えられるようにする。そして、発表会を通して「わたしの町には、すてきがいっぱいあるんだなあ。」と実感し、学習の前よりも「もっと町が好きになったよ。」と町への愛着を深めることができるようにしたい。

### 4. 児童の実態から

#### (1) この単元を通して育てたい子どもの姿と子どもの思い・願い

##### この単元を通して育てたい子どもの姿

- 地域で生活したり働いたりしている人々や、様々な場所に親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活したりする子ども。
- 地域の人々や様々な場所とのかかわり方や安全な生活について考え、人々と適切に接したり安全に生活したりするとともに、心に残った出来事などについて、表現方法を工夫しながら身近な人々に伝えようとする子ども。
- 自分たちの生活は、地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所とのかかわりをもっていることが分かる子ども。

子どもの思い・願い

- 町にはどんなものがあるのかな。どんな人がいるのかな。知りたいな。
- お茶屋さんには、いろんなお茶があるんだって。お店の人に聞いてみたいな。
- 登戸の町には、すてきな人や場所がたくさんあるな。みんなに伝えたいな。

(2) 教師の願いと配慮事項

<配慮事項→子どもの思いや願い・教師の願いを達成するために配慮すること・手だて>

教師の願い

(生活への関心・意欲・態度)

(活動や体験についての思考・表現)

(身近な環境や自分についての気付き)

①地域で生活したり働いたりしている人々や、様々な場所に関心を持ち、繰り返しかかわる中で、地域の人々や場所に親しみや愛着をもって生活してほしい。

②地域の人々と適切に接することや安全に配慮することの大切さについて考え、探検してほしい。探検した中で心に残った出来事を身近な人々と伝え合ってもらいたい。

③地域には自分たちを見守ってくれる人がたくさんいることに気付いてほしい。活動したことに満足感や自信を持ち、地域のよさや自分、友達によさに気付いてほしい。

配慮事項

①発見したことや気付いたことを地図に貼って紹介できるようにしておくことで、地域に関心をもてるようにする。町に出る機会を多くもち、繰り返しかかわることで、児童の思いや願いが叶えられるようにし、意欲をもって活動できるようにする。

②地域の人々と直接かかわる中で、うれしかったことや困ったことなどはなかったか話し合う時間を設ける。その中で、子どもたち自身が適切に接しようという気持ちをもてるようにし、かかわる力を身につけていけるようにする。探検した中で得たことを伝えたいという気持ちを大切にしながら、準備や発表会を進める。

③地域の人々や場所のよさに気付くことはもちろん、人とかかわることの楽しさを感じ、そこから地域には自分達を見守ってくれている人がたくさんいることに気付けるようにする。探検や発表では友達と関わりながら進めるようにし、友達によさにも気付けるようにする。

(3) 配慮事項に関する実態

○配慮事項①に関連して

・町に対する興味・関心

(春の町はっけんの探検・発言・つぶやきより)

春の町はっけんの学習で、学校の周辺を探検した際に子どもたちは“春”以外のものに対して、興味・関心を示していた。例えば、「空き地は、草がボーボーで楽しそう。入ってみたいになった。」や「氷屋さんってどんなお店なんだろう。」と、色々な発見や疑問が出た。また、3丁目は住宅が多く店が少ないことや、1丁目は車通りが多いことなどそれぞれの地域の特徴に気付いた発言もあった。そして二つの公園を比べて、「どっちもとてもきれいだね。誰か掃除しているのかな。」というつぶやきから「わたし、公園の掃除したことあるよ。休みの日に近所の人とやった。」と会話が広がり、そこに住む人たちが協力して生活していることにも、わずかではあるが目を向けることができた。こういった、興味や関心を丁寧に見取り、一つ一つの活動に意欲や目的意識をもって取り組める子ども達を育てていきたい。

○配慮事項②に関連して

・地域の人々とのかかわり

(行動観察より)

子どもたちにとって身近な地域の人というとセーフティウォッチャーさんである。毎日登下校を見守ってくれたり、声を掛けたりしてくれるため、子どもたちも親しみをもって接している。また、春の町はっけんの学習の

際には来校していただき、探検する際に気を付けてほしい道や日頃心配に思っていること等を子どもたち全員に話してもらった。子どもたちは、セーフティウォッチャーさんの思いを知り、自分の登下校の仕方を振り返るとともに、セーフティウォッチャーさんがより身近に感じ、今までより積極的にかかわるようになった。「今日もセーフティウォッチャーさんに元気にあいさつしたよ。」と登校してきたり、セーフティウォッチャーさんのことを名前で呼んだりする子も出てくるようになった。しかし、あまりかかわりのない地域の人に対してはあいさつをされても返すことができないという実態がある。子ども達の通学路にはいくつか店があり、下校時には店の人が店先に立って「おかえり～」と声を掛けてくれる。しかし、恥ずかしがって小さな声でしか返すことができなかつたり、そそくさと足早に通り過ぎてしまったりする子がいる。学習の始めでは、かかわることを恥ずかしがる子もいるかもしれないが、学習が進むにつれ、「話を聞いてみたい。」「見てきたい。」という思いがもてるようにし、実際にかかわる中で楽しさを感じ、それが日々のかかわりへとつながるような学習活動にしたい。

・自分の伝えたいことを表現する経験 (春の町はっけんの学習・行動観察より)

春の町はっけんの学習では、町の中で見つけた春を全体の前で発表したり、グループの中で紹介したりする活動を行った。しかし、自分のかいたカードをもとに伝える形式をとったため、子どもたちは様々な表現方法があることを知らず、経験もしていない。そこで、今回の学習では、多様な表現方法を認めるとともに、教科書に載っているような方法もあることを紹介したり、一緒に考えたりして、表現することの楽しさを味わわせていきたい。また、その子が伝えたいという思いをもって活動していることに目を向け、認めていくことで、一つ一つの表現方法が自信につながり、その活動を積み重ねることで、確かな表現力をはぐくんでいけるようにしたい。

○配慮事項③に関連して

・人への親しみ、愛着を深めるかかわり (行動観察より)

子どもたちの周りには、家族、先生、地域の人達など多くの大人がいて、いつも安心して暮らせるように見守ってくれている。とても恵まれた環境の中にいるのだが、子ども達にとっては、当たり前のことになっていて、心の中では「ありがとう。」という思いはあるのだと思うが行動としての表れは少ない。今回、地域の人々とかかわる中で、地域の人たちの思いに触れ、自分たちの周りには見守ってくれている大人がたくさんいることに気付いてほしい。また、グループで探検したり発表したりと友達とかかわる機会も多くある。その中で「〇〇君は、はきはき話せてすごいな。」や「紙芝居、一緒に作ろうって言ってくれた。うれしいな。」など新たな友達の一面に気付けるようにする。また、単元全体を振り返り、自分自身の成長も感じられるようにしていきたい。

5. 活動の流れ (24時間扱い)

活動のきっかけ

～子どもたちのつぶやきや会話から～

○あのお店の人は、いつも「おかえり」って声をかけてくれるね。

○いつも行っているコンビニの近くにお米屋さんがあるなんて知らなかったな。行ってみたいな。

○交番のおまわりさんにインタビューしてみたいな。

## 主な活動と内容

### 小単元1：町にははっ見がいっぱい（7時間）

#### 小単元の評価基準

- ◎自分の知っている「町のお気に入り」を紹介し合い、興味をもって調べようとしている。（関心・意欲・態度）
- ◎自分のお気に入りの場所などをカードに表し、探検のめあてを明らかにしている。（思考・表現）
- ◎町には自分の知らなかったことがたくさんあることに気付いている。（気付き）

○これまでのことを思い出し、自分のお気に入りの場所や人、ものなどをカードにかいて紹介し合う。（1）

○紹介し合った「町のお気に入り」を確かめたり、見つけたりしに行く。帰ってきたら、全体で振り返りを行う。（2時間×3回）

#### （留意点）

- ・「お気に入り」をキーワードとしてとらえられるようにするため、教師が意識して使うようにする。
- ・カードを人や場所、ものなどに分類し、たんけんのめあてや見通しをもてるようにする。
- ・床地図を用意し、カードを貼ったり、場所を確かめたりできるようにし、「行ってみたい」「会ってみたい」という気持ちを高める。
- ・お店に迷惑がかからないようにするために時間帯や安全に配慮するとともに、可能であれば店先で子どもたちに声を掛けてもらえるようお願いしておく。
- ・確かめたり、見つけたりしに行った後は、どんな人や場所、ものがあつたか話し合う時間を設け、もっと見たい、また行きたいといった気持ちをもてるようにする。

### 小単元2：町たんけんに行つてはっ見しよう（7時間）

#### 小単元の評価基準

- ◎目的をもって探検の計画を立て、「町の大すき」を見つけようとしている。（関心・意欲・態度）
- ◎もの・場所、人とのかかわりを深め、驚きや共感を得ている。（思考・表現）
- ◎自分の町には大切な人や場所、ものなどが存在していることに気付いている。（気付き）

○自分たちのめあてや調べる方法を明確にもち、たんけんの準備をする。（1）

○計画に従って、探検に出かける。（2）

○探検で得たことを交流し合う。（1）

○自分たちのめあてや調べる方法を明確にもち、探検の準備をする。（1）

○計画に従って、探検に出かける。（2）

#### （留意点）

- ・前時の伝え合いをもとに目的別グループを組んで話し合い、たんけんのねらいを明確にする。
- ・インタビューの仕方を例示し、取材意欲を高める。
- ・1度目の探検後に学級全体で気付いたことやもっと知りたいこと等を共有し合うことで、次の探検も目的をもって行けるようにする。
- ・繰り返し探検に行くことで、「新しいお店を見たい。」「もう一度同じ所で話を聞きたい。」といったそれぞれの思いを叶えることができるようにする。
- ・保護者の協力を得て、安全の確保に努める。

### 小単元3：見つけたことをつたえよう（10時間）

#### 小単元の評価基準

- ◎見つけた町のよさや町への思い等を進んで伝え、これからもかかわりを深めていこうとしている。  
(関心・意欲・態度)
- ◎見つけたことや気付いたこと、考えたことなどをわかりやすく表現したり、これからの町とのかかわりについて考えたりしている。  
(思考・表現)
- ◎地域の人々やさまざまな場所とかわると楽しく生活できることや地域のよさに改めて気付いている。  
(気付き)

#### ○町探検をして、見つけたことや気づいたこと等を見直す。(1)

- ・今までにかいたカードや写真等を整理する。
- ・自分の「町の大きさナンバー1」を決める。

#### ○「町の大きさ」発表会の準備をする。(6)

- ・発表会までの計画を立てる。
- ・準備をする。
- ・必要に応じて再度たんけんする。

#### ○「町の大きさ」発表会をする。(2)【本時2/2】

#### ○町たんけんや発表会を振り返る。(1)

#### (留意点)

- ・活動したことに満足している姿や伝えたいという気持ちの高まりを捉えたり、探検の振り返りをしたりすることから伝えることへのきっかけがもてるようにする。
- ・発表方法を提示したり、教師と一緒に考えたりしながらどのように発表すると効果的なのか考えながら発表の準備ができるようにする。
- ・準備が滞っている子に対しては、同じ表現方法の友達の進め方を参考にするとよいことを助言したり、同じ内容を伝える友達と話し合えるような場を設けたりすることで意欲が持続できるようにする。
- ・聞き手の立場に立って考えたり、リハーサルをしてアドバイスを受けたりするとよいことを助言する。
- ・教師が質問をして発表内容が深まるようにする。
- ・町たんけんでお世話になった人達にも聞いてもらいたいという思いや来年たんけんに行く1年生に教えたいといった思いも大切に、その思いがなるべく叶えられるよう発表会を設定する。
- ・発表会では、聞き手との交流を深めたり、次への意欲がもてたりするように質問や感想が受けられるようにしておく。
- ・今までの活動を価値付けたり、子どもの思いや願いをできるだけ実現できるようにしたりすることで地域とかわるよさが実感できるようにする。

## 6 本時の指導

### (1) 本時の目標

○町で発見したことを工夫して発表したり友達の発表を聞いたりする活動を通して、町のよさに気付き、自分達の町に親しみや愛着をもつことができる。

### (2) 展開 (23/24)

学習活動と内容		教師の支援 (○) と評価 (☆)
1 本時の活動やめあてをつかむ。 ・前時の活動を振り返り、それぞれのめあてを確認する。 ・発表するときや聞くときの約束を確認する。		○前時を振り返りながら、今日のめあてについて確認し学習の見通しがもてるようにする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">             はっぴょう会をして、町のよさをもっと見つけよう。           </div>		
2 「町の大すき」発表会をする。 ・町の大好きを発表する。 ・友達の発表を聞いて、感想を伝えたり質問したりする。		○一人一人に効果的な支援や助言ができるよう、また、内容が深まったり、安心して発表できたりするように1グループごとに発表する。  ○必要に応じて教師が質問したり、対話をしたりすることでその子なりの気付きを認めたりほめたりして気付きの深まりがもてるようにする。  ☆町のいろいろな場所や人とかかわって楽しかったことやよかったことなどを発表している。 <div style="text-align: right;">【思考・表現】(発表の様子)</div>
伝えたいこと	聞き手の反応・質問	
①パン ・お姉さんが優しく教えてくれたこと・パンの種類	・おいしそうだな。 ・おすすめのパンはあるのかな。 ・行ってみたいな。	
②幼稚園 ・子どもの数が多くて驚いたこと	・たくさんいるんだな。 ・なつかしいな。 ・兄弟が通っているよ。	
③コンビニ ・店員さんが詳しく教えてくれたこと・コンビニの秘密	・ローソンのマークの意味がわかったよ。ファミリーマートのマークにも意味はあるのかな。	○感想や質問が出ない場合は、教師が間に入り発表を聞いてどんな気持ちかや、もっと知りたいことはないかなど問いかけ、発表の内容が深まるようにする。
④そば ・材料や作り方	・おそばの材料って遠くから来ているんだな。 ・おそば屋さん優しいな。	
⑤お茶屋さん ・おじさんがお茶のことを何でも知っていてすごいこと。	・探検したときのことがよくわかるな。・おじさん、何でも知っているな。	☆友達の発表を聞いて、町のよさや友達のよさに気付いている。 【気づき】(発表の様子・態度・つぶやき)
⑥美容室 ・髪の毛の切り方や染める色の種類について	・髪の毛の切り方がわかったよ。 ・ぼくも切ってみたいな。	○発表をして感じたことや質問を受けたことで改めて気づいたことを取り上げるようにし、気付きを深める。 ○発表を聞いて初めて知ったことや行ってみたい場所を取り上げるようにし、町にはまだまだ自分の知らないことがあり、魅力が詰まっていることに気付けるようにする。 ☆発表会を通して、これまでの活動を振り返り、町のよさや町とかかわっていくよさに気付いている。 <div style="text-align: right;">【気づき】(発表・態度・つぶやき)</div>
3 本時の活動を振り返る。		



